

市長の ふれあい訪問

●今回の訪問先●

はつま
初午太鼓保存会

3月の最初の午の日に、鑄物工場で鳴り響いていた初午太鼓。この郷土芸能の本来の姿を探り、後世へ伝えるため、川口鑄物工業協同組合を主体とし、川口商工会議所・川口機械工業協同組合・川口木型工業協同組合などが発起人となり設立された「初午太鼓保存会」のみなさんを岡村市長が訪問。太鼓の歴史や活動内容を聞きました。



市長 みなさん、こんにちは。弥生三月を迎え、本格的な春の訪れが待ち遠しい今日この頃です。今月の市長のふれあい訪問は、初午太鼓保存会のみなさんです。どうぞよろしくお願います。

はじめに、初午太鼓の由来を教えてくださいませんか。

伊藤 初午の午は、お稲荷さんのことで、昔から商売繁盛と火伏せの神様といわれてきました。川口は鑄物屋が多く、火を使うので、火災予防や安全を祈り、旧暦で最初の午の日に、鑄物工場で太鼓をたたいて祭りを行いました。その時の太鼓が初午太鼓といわれています。

市長 相当の歴史ですね。

石川 川口は荒川で良質の砂が取れたことから、鑄物産業が発展しました。その炉の火の番を夜通ししているときに、茶碗をたたいたのが初午の起源になったのではないかとわれています。

伊藤 江戸の文献にも川口の太



鼓の音が荒川を渡り聞こえると書かれています。

市長 私も、海の波が引いては寄せ、引いては寄せるような太鼓の音が川口中から聞こえてきたという文献があると聞いたことがあります。ところで、この保存会の発足はいつなのですか。

細野 昭和52年の第7回大会の時に設立しました。その後、平成14年に組織を再編して、コンクールなどを大々的に行ったり、事前のPRを行ってきました。

市長 現在、初午太鼓保存会に登録している団体はどれくらいあるのですか。

石川 25団体です。

市長 そこからコンクールに出場するわけですね。いつ開催するのですか。

伊藤 今年は、3月13日の日曜日にリリア・メインホールで開催します。

市長 今年で何回目になるのですか。

細野 今年で41回目になります。大人のチームが28チーム、子どもチームが30チーム、全部で58チームが出場します。

市長 鑄物企業関係のチームは何チーム参加するのですか。

伊藤 今回は3チームです。昔は、鑄物会社がそれぞれ単独で出場していましたが、今は市民による太鼓クラブのほうが多いですね。

市長 鑄物関係のチームは減りましたけど、初午太鼓は川口の郷土伝統芸能の一つとして広がっていますね。独特のリズムがあるのですよね。

石川 言葉に方言があるように地域によって太鼓のたたき方は違いますが、基本があります。

細野 「チャカマカチャ」というリズムです。この基本を大切にしていきたいと思っています。

市長 子どものチームがたくさん出場しますが、青少年の育成の面ではどうなのですか。

石川 1チーム10人が一つの音を出すということは、きちんと規律を守らないとできません。厳しい練習の中で、いいチームワークが生まれ、いい音を出せるよ

うになります。

伊藤 礼儀がすごく正しくなります。生活の基本ができてくると感じます。

市長 集団の中の個人の役割やチームワークを自然に勉強できるでしょうね。郷土芸能の保存だけではなくて、人づくりにもつながっているということも素晴らしいことです。それは、最後にこれからの抱負をお聞かせください。

伊藤 初午太鼓を後世に残していくことに一生懸命取り組んでいきたいと考えています。多くの市民の方に川口の初午太鼓を知っていただき、応援してもらい、参加していただけるよう、力をあわせて頑張っていきたいと思います。

市長 市民の方にもぜひ、こうした伝統的な文化活動をご理解いただければありがたいと思います。今年の大会は今月の13日リリアだそうですね。今日はどうもありがとうございました。

